【決勝戦】

〈起家から、荒▼小山▼片山▼児嶋〉

他の卓は取り払われ、会場の照明は消され、撮影用のライトでただ1卓だけが浮かび上がる。四方をカメラで囲まれた異様な雰囲気。まさに決戦場だ。

荒・片山はこうした雰囲気に慣れている。児嶋は麻雀での場面はともかく、カメラの前に立つ職業だ。ただ一人の一般参加・小山に過度の緊張が走ると思われたが……。

予想に反して小山はのびのびと打っていた。まず東1局、2フーロしたタンヤオドラ1を荒からアガる。迎えた東2局、オヤ番。ドラの中が2枚あり、ホンイツ、あるいはチャンタにも行けそうなリャンシャンテンの配牌だった。

だが、その手が、

中中中ポン

ここまで育ったところで中を鳴かせた片山がピンフをツモった。ドラを鳴かせたからといってリーチするわけでなく、ツキ出しそうな小山のオヤを流すというテーマに忠実に打つ。やはり片山は試合巧者だ。

東3局、今度はその片山が6巡目にオヤリーチを打つ。しかし小山がこれをかいくぐって10巡目にチンイツのチーテンを入れ、次巡ツモアガる。このマンガンで小山が頭一つ抜け出した。

連チャンも流局もなく意外に早い進行で迎えた東ラス、ここまで鳴りを密めていた児嶋がオヤリーチをツモッた。ウラが1枚のって2千オール。一本場でも児嶋は発から仕掛けた3フーロ。誰も前に出られず、一人テンパイ料を

オーラス、逆転優勝を決めた小山のアガリ。

ギャラリーはモニターで4人の闘牌を同時に観戦できる

せしめた。シャンポンマチの高め東は荒、小山の手の中にしっかりブロックされていた。

2本場は荒が5巡目に[illegible]の3メンチャンリーチ。これに小山が飛び込んだ。2600の2本場で3200点。トップ目の点棒が削られると同時に、児嶋の連チャンは終わった。まだ誰もツキを手繰り寄せてはいない…。

南1局、ダブ南から仕掛ける小山。負けずにドラトイツからクイタンに出る荒。先にテンパイしたのは小山だったが、ドラの[illegible]を掴むと雀頭の[illegible]を落として回ってしまった。このとき荒はドラをポンしてもテンパイしない形だった。結局、小山はもともとのアガリ牌[illegible]をチーしてドラタンキでテンパイするが、荒に5800を打ち上げてしまう。

この荒のオヤを落としたのが児嶋。2600のアガリだが、2万3千点台の荒、小山に1万点以上の差をつけた。そして南2局、児嶋は10巡目にこのリーチを打った。

「決め」に行ったリーチ。しかしすぐ、片山がピンフ[illegible]マチで追っ掛ける。

このとき荒はドラの[illegible]3枚で、

この「何でも来い」のイーシャンテンが長かった。15巡目にようやく一萬を引き入れ、ドラを打ってのピンフリーチ。

しかし、この3人リーチが意外にも流局……。児嶋の牌姿を見た片山は、「この3メンチャンがアガれないなら、もうひと波乱あるな……」と思ったという。

ラス前は、オヤ片山のリーチをかいくぐって、小山がノミ手をツモ。前局と合わせてリーチ棒4本を回収して2着目に立つ。オーラスを迎えての点棒状況は、児嶋34000・小山2622 00・荒23200・片山16600。

そして運命のオーラス。ノーテン終了も選べる児嶋。しかし手牌は前に出てアガリヤメで決着をつけろと言っていた。7巡目に、

この好形である。しかし、こうした大舞台では、しばしば魔物がやってくる。それが9巡目にツモったドラの[illegible]だった。

児嶋もあたるとは思っていないが、小山や荒に鳴かれるだけでも苦しくなる点差なのだ。

児嶋が選んだのは打[illegible]だった。次巡、一萬ツモ。役なしのカン[illegible]テンパイ。しかし、このとき上家の片山が[illegible]を切っていた。一萬切りか[illegible]切りを選択していれば、この[illegible]をチーしてタンヤオのテンパイを入れられたのだが……。そして結末は、小山が八萬マチのリーチを一発でツモってマンガン。そのリーチ宣言牌が[illegible]だったのである。

勝利の女神はどうやら前に出続ける若者が好きなようである。おめでとう小山君、キミが全国3千人の頂点だ！

舞い上がることとなく、落ち着いて打った読者代表の小山

オーラスまでトップだった児嶋。後一歩及ばなかった。残念。

片山は苦しい闘いを強いられた

さすがに荒。重厚な麻雀だった

荒の3メンチャンリーチ

3人流局となる。児嶋の3メンチャンは不発だった

今回の
第18回麻雀最強戦は
DVDに収録、発売されます。
来年1月25日発売!!
乞う御期待!!